

企業外労働衛生機関 によるヘルスサポート プログラム

財団法人

福岡労働衛生研究所

森田哲也

企業外労働衛生機関

- 職域健康診断実施機関
- 作業環境測定機関
- 健康保持増進サービス機関

- 上記すべて+ α を提供する機関

職域健康診断実施機関

- 健康診断：診療行為、医療機関で実施可能
- 定義は？
 - 法令上の定義はない
 - 産業医学振興財団は産業医科大学就学資金貸与規則のなかで指定（67機関）

作業環境測定機関

作業環境測定法 第2条（定義）

- この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。
- 7. 作業環境測定機関
 - 厚生労働大臣又は都道府県労働局長の登録を受け、他人の求めに応じて、事業場における作業環境測定を行うことを業とする者をいう。

労働者健康保持増進サービス機関

■ 認定

- 労働大臣が定めた事業場における労働者の健康保持増進のための指針(昭和63年健康保持増進のための指針公示第1号)に基づく
 - 労働安全衛生法(昭和47年法律第57号)第70条の2第1項の規定
 - 厚生労働大臣は、第六十九条第一項の事業者が講ずべき健康の保持増進のための措置に関して、その適切かつ有効な実施を図るため必要な指針を公表するものとする。

■ 定義

- 事業者の委託により健康保持増進のための指針に従い、労働者に対する健康測定、運動指導、メンタルヘルス、栄養指導及び保健指導(以下「健康保持増進措置」という。)を適切かつ継続的に行うことのできる機関

全国労働衛生機関連合会

全衛連健康診断実施人数など 平成16年度

健康診断の種類	実施人員(千人)
一般健康診断	11,774
雇用時健康診断	213
定期健康診断	9,373
その他の一般健康診断	2,188
特殊健康診断	1,265
しん肺健康診断	166
有機溶剤健康診断	543
鉛健康診断	73
電離放射線健康診断	80
特定化学物質健康診断	259
高気圧業務健康診断	4
歯科健康診断	61
その他の法定の特殊健康診断	79
行政指導による健康診断	764
VDT健康診断	395
騒音障害健康診断	176
腰痛健康診断	59
振動障害健康診断	45
有害光線健康診断	51
その他の行政指導による健康診断	38
生活習慣病健康診断	7,113
人間ドック	663
健康測定	59
小 計	21,638

【地域・住民関係】	
住民一般健康診断	2,276
生活習慣病健康診断	6,127
人間ドック	111
小 計	8,514
【学童・生徒健康診断】	8,998
【総 計】	39,150

職員数 (平成17年4月末現在在籍者)			
区 分	常 勤	非常勤	合 計
役員(医師以外)	213	443	656
医師	940	1,665	2,605
診療放身寸線技師	1,387	517	1,904
診療工ックス線技師	48	16	64
臨床検査技師	2,549	870	3,419
衛生検査技師	34	3	37
保健師	521	130	651
看護師等	2,484	1,800	4,284
作業環境測定士	245	8	253
その他	7,088	2,382	9,470
計	15,509	7,834	23,343

全衛連スタッフ数

区 分	常 勤	非常勤	合 計
役員(医師以外)	208人(1.4)	482人(5.7)	690人(2.9)
医師	930人(6.1)	1,988人(23.6)	2,918人(12.4)
診療放射線技師	1,294人(8.5)	454人(5.4)	1,748人(7.4)
診療エックス線技師	79人(0.5)	23人(0.3)	102人(0.4)
臨床検査技師	2,559人(16.8)	852人(10.1)	3,411人(14.4)
衛生検査技師	54人(0.4)	8人(0.1)	62人(0.3)
保健師	468人(3.1)	135人(1.6)	603人(2.6)
看護師等	2,475人(16.3)	2,024人(24.0)	4,499人(19.0)
作業環境測定士	252人(1.6)	9人(0.1)	261人(1.1)
その他	6,889人(45.3)	2,449人(29.1)	9,338人(39.5)
計	15,208人(100.0)	8,424人(100.0)	23,632人(100.0)

企業外労働衛生機関の サービス対象

- 企業
 - 企業単位
 - 事業所単位
- 健康保険組合
- 自治体
 - 自治体職員
 - 地域住民
- 学校
 - 教職員
 - 学生
- その他 団体
 - 工業団地
 - 法人会
 - 厚生年金基金など

事業内容

- 健康診断とその後の指導・フォローアップ
- 健康測定とそれに基づく指導
- 健康づくりへのさまざまな支援
- 作業環境測定と作業環境の改善
- メンタルヘルスサポート
- (上記も含め)産業保健活動
 - 産業医の活動
 - 保健師の活動

財団法人 福岡労働衛生研究所

スタッフ

- 事務職員 174名
- 医師 16名
- 保健師 17名
- 看護師 28名
- 管理栄養士 2名
- 放射線技師 14名
- 臨床検査技師 14名
- 作業環境測定士 4名
- ヘルスケアトレーナー 4名

以下兼務

- 労働衛生コンサルタント(保健)
4名(医師)
- 産業保健指導者 3名
- 産業栄養指導者 2名
- 心理相談員 4名

産業保健のための活動

- 健康診断
 - 定期健康診断
 - 特殊健康診断
 - 労災二次健康診断
 - 生活習慣病健康診断
- 健康増進事業
 - 健康診断後 支援活動
 - 健康教育活動
 - 体力測定や運動指導活動
 - THP活動
- 作業環境測定事業
- 産業医活動の受託
- 企業単位・事業所単位の保健師業務の受託
- メンタルヘルスサービス (EAP)

H16 産業医活動

表1-17 産業医活動

						単位:事業所、回、%
区分	50人未満	50~99人	100~499人	500~999人	1,000人以上	合計
事業所数	27	123	73	2	3	228
(比率)	11.8	54.0	32.0	0.9	1.3	100.0
指導回数	232	768	687	60	315	2,062
(比率)	11.2	37.3	33.3	2.9	15.3	100

表1-18 産業医の活動頻度

						単位:事業所
区分	50人未満	50~99人	100~499人	500~999人	1,000人以上	合計
毎週定期的	0	2	6	1	2	11
毎月定期的	9	22	30	1	0	62
年に随時	18	99	37	0	1	155
合計	27	123	73	2	3	228

地域保健のための活動

- 健康診断
 - 住民健診、基本健康診査、がん健診、肝炎検査
骨粗しょう症検査
- 健康増進
 - 健康診断結果の個人面談説明
 - 健康教育
 - 保健指導
 - 体力測定・運動実技
- 健康診断(特にがん検診)後の追跡調査

学校保健その他のための活動

- 学校保健：健康診断
 - 高等学校
 - 専門学校
 - 高等専門学校
 - 大学
- 一般：健康診断など
 - 人間ドック
 - 二次検査
 - 外来診療

健康に関連する講話やセミナー

区 分		事業所数	実施回数	実施人数
	生活習慣病関連	17	23	489
	運動関連	42	80	1,950
健康講話	栄養関連	7	10	147
	メンタルヘルス関連	10	12	329
	計	76	125	2,915
健康セミナー		15	19	793
合計		91	144	3,708

ある団体への メンタルヘルス・健康づくり支援

- リラックスセミナー
- 講師派遣
 - テーマ内容のリスト
 - 各職場でのテーマ選定

10:00	セミナー開講挨拶
10:10	ストレス関連講話 『ストレスとこころ・からだ』
11:00	休憩
11:05	音楽セラピー（実技） 『音楽による癒しのすすめ』
11:55	昼食メニュー紹介・昼食 『食事の楽しみ方』
13:00	アロマセラピー（実技） 『アロマセラピーでストレス解消』
14:20	休憩
14:30	運動（実技） 『ニコニコベースの運動とストレッチング』
15:50	セミナー閉講挨拶
16:00	

講師派遣のテーマ

- 職場での健康づくり導入法
- メンタルヘルス対策のための基礎知識
- メンタルヘルス入門
- 化学物質の健康リスク
- 健康ウォーキング
- 簡身体力チェック
- 肩こり・腰痛予防教室
- リラクゼーション体操
- 食事で血糖コントロール
- 血液サラサラ食生活
- 脳を活性化する食生活
- がんを予防する食生活
- 若さを保つ食生活アドバイス
- 腸を丈夫にする食生活
- 生活習慣病と食習慣
- 健康診断結果の見方
- 健康習慣のすすめ
- 肝臓の病気について
- 高脂血症予防・改善講座
- 生活習慣改善で血圧コントロール
- メタボリックシンドローム予防講座
- 免疫力を高めよう
- 禁煙のすすめ
- あなたの骨は大丈夫？
- 自己再発見講座
- 音楽による癒しのすすめ
- セルフセラピー入門
- アロマセラピーでリラックス
- アロマによるハンドマッサージ
- 歯の健康管理

自治体に対して

- ヘルスアップモデル事業



- ヘルスアップ事業

- ウォーキング教室

- 水中運動教室
-

健康保険組合との提携

- 担当保健師や担当医師のもと
 - 健康診断の実施
 - 経年変化や各項目を総合しての判定・指導
 - 精密検査
 - 3—6ヶ月後のフォローアップ・指導
- トレーナーが中心となった運動教室の実施
 - 週2回 複数年継続

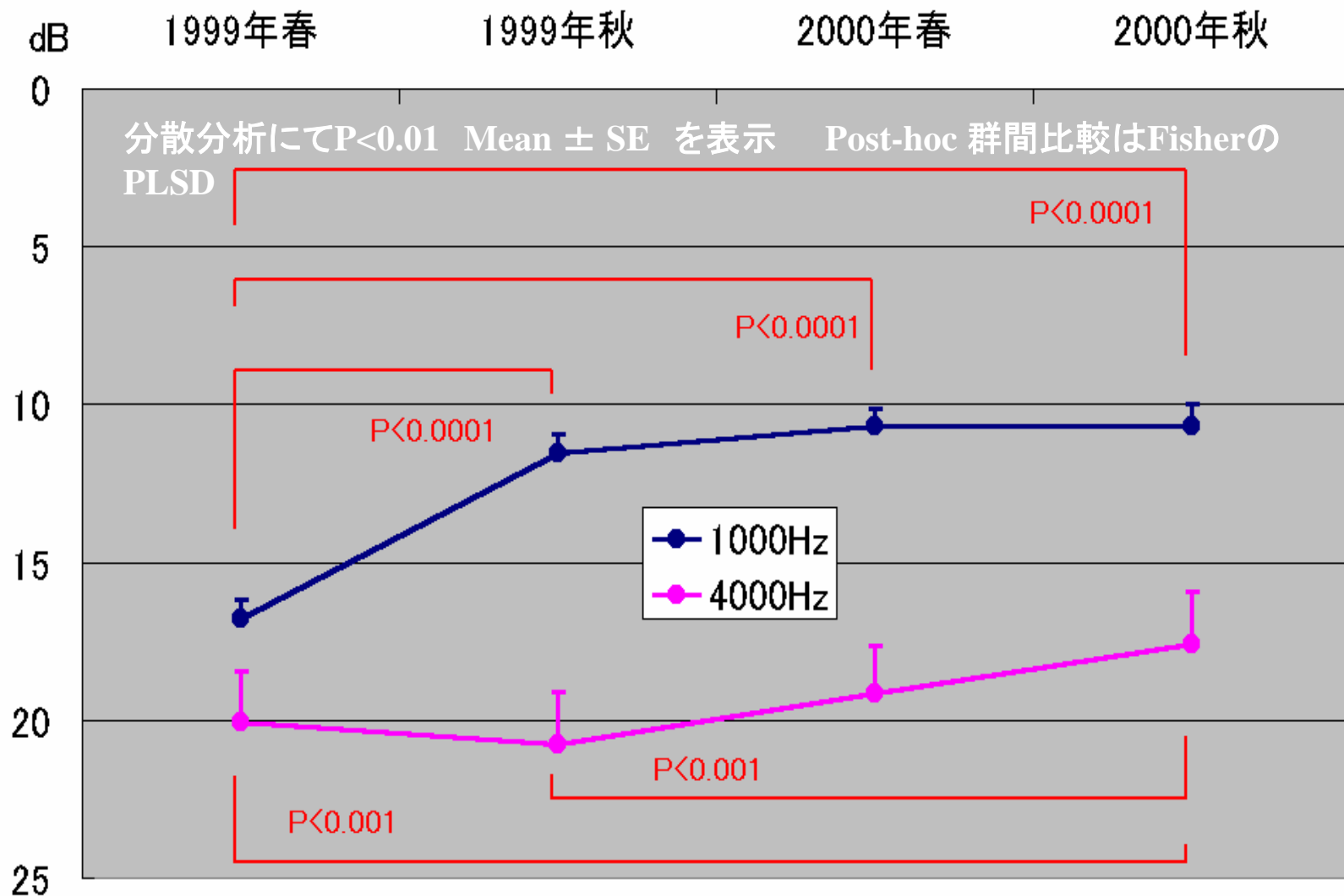
ある 騒音職場の 聴力検査

- 聴力検査をしても 職場では うるさいから 判断ができないのではないの？
- いっそ 聴力検査を やめてしまったら・・・
- みんなが 納得できる検査方法は？

防音ボックスを使ってみよう

		1000Hz			4000Hz		
	N=60 単位 dB	両耳	右	左	両耳	右	左
1999 年春	室内	16.8	16.5	17.1	20.1	20.7	19.5
1999 年秋	Box	11.5	11.3	11.8	20.8	21.9	19.6
2000 年春	Box + カーペット	10.7	10.9	10.5	19.2	19.9	18.4
2000 年秋	Box + カーペット + 畳	10.7	11.0	10.3	17.6	18.4	16.8

聴力検査の結果推移

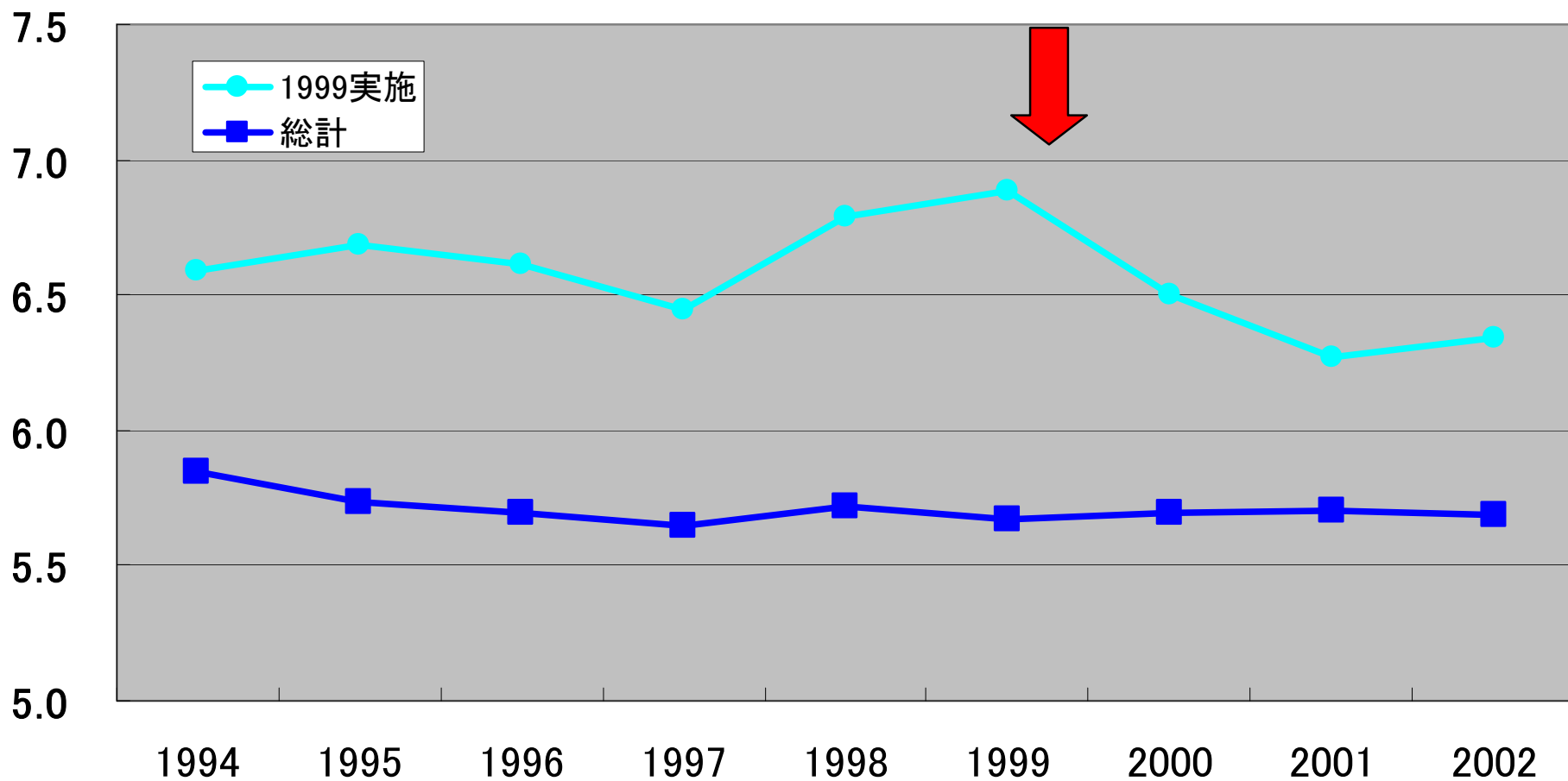


健康教室

- 一般的な知識の講義
- 実際の食事を含めた栄養指導・講義
- 運動の実技指導
- ディベートセッション
 - 生活習慣を改善するために何らかの対策を実行するか否か
 - 結果発表
- 今までの生活を振り返ってのグループ討議

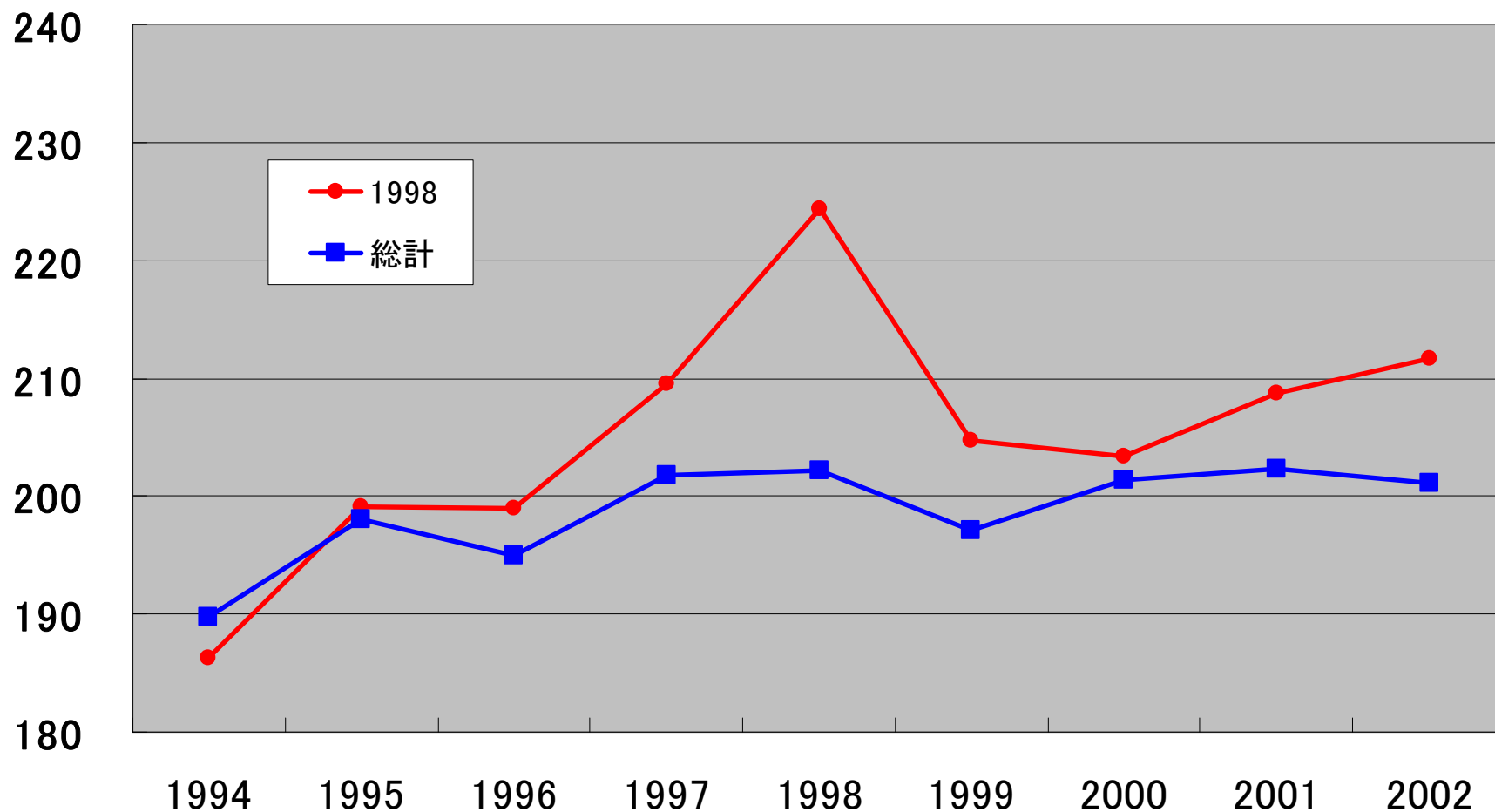
尿酸 健康教室参加者

尿酸 1999

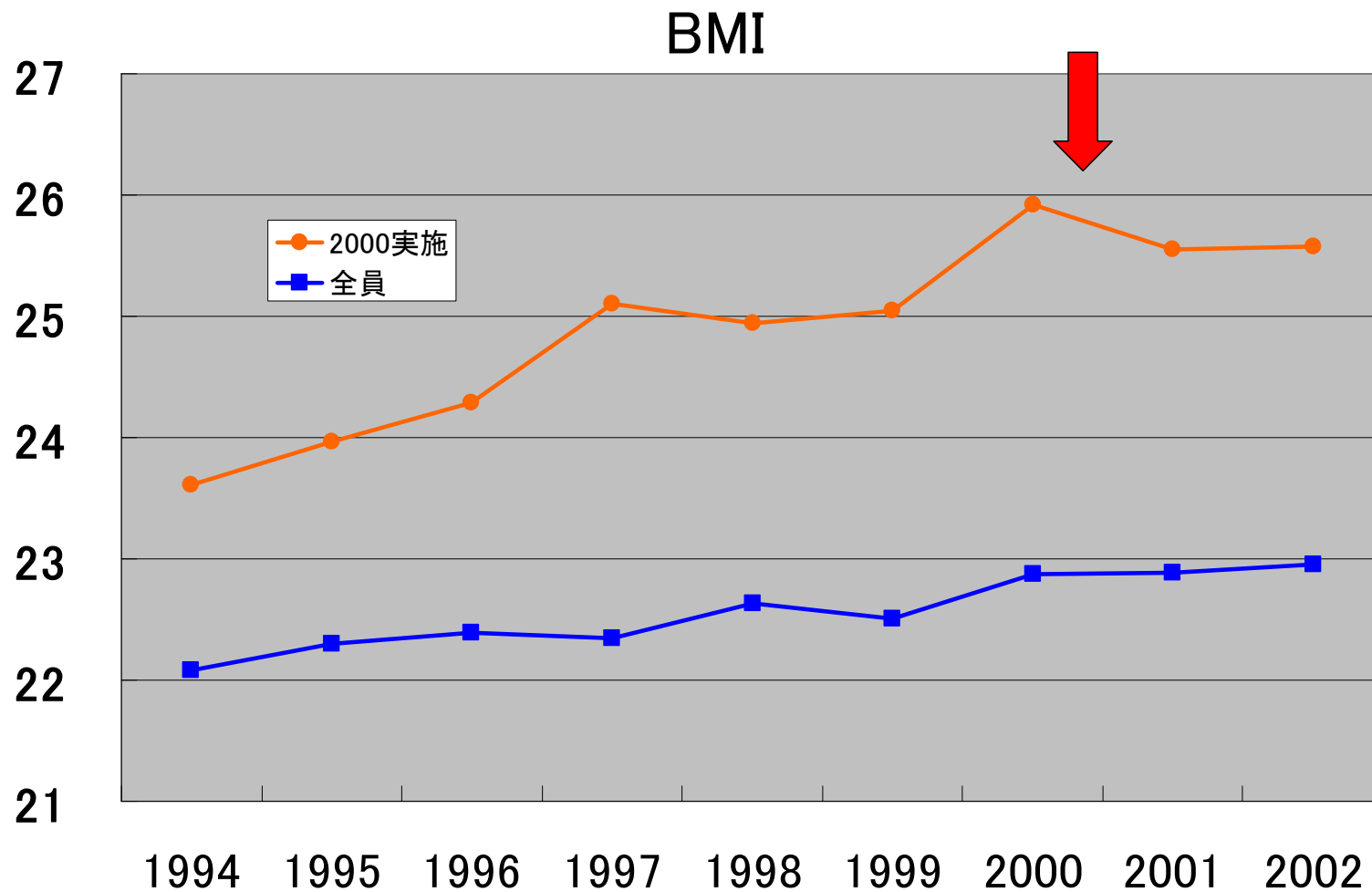


脂質 健康教室参加者

T-CHO



肥満 健康教室参加者



生活習慣の変化

	次年度						
	0	1	2	3	4	5	6
0	1						
1		3			2		
2		2	1	2	4	1	
3		1	4	6	6	2	
4			1	7	13	9	1
5			1	1	4	9	1
6					1		3

- 喫煙の有無
 - 適正飲酒
 - 睡眠
 - 朝食をとる
 - 定期的運動
 - 栄養への配慮
- 以上6点
- 適切な労働時間

仕事 不適切⇒適切

	次年度					
	1	2	3	4	5	6
1						
2		1				
3		1	1	1	1	
4				1	2	
5		1				
6						1

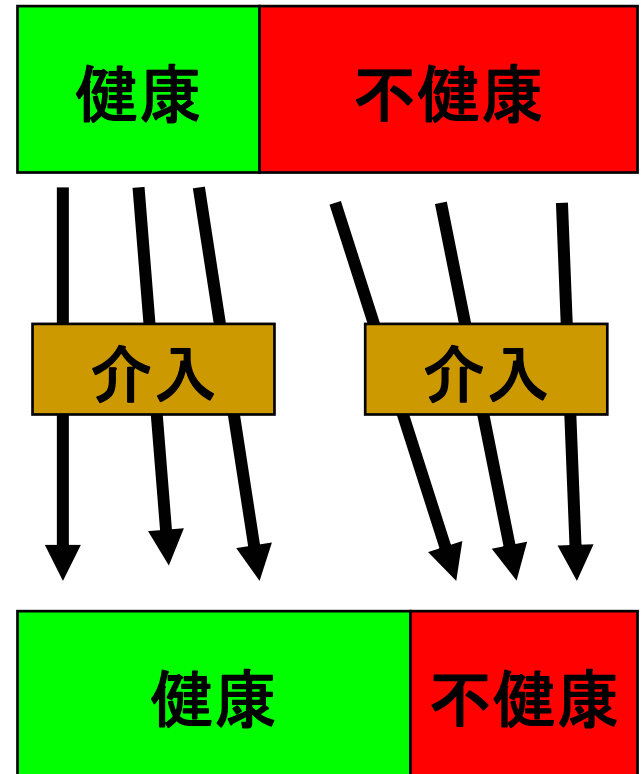
仕事 適切⇒不適切

	次年度					
	1	2	3	4	5	6
1						
2	2			1		
3			1	1		
4			2	3		
5						
6				1		1

SFA (Solution Focused Approach)

解決思考アプローチ

- 従来の介入との違い
- 従来
 - 不健康な部分に注目
 - 不健康な部分を減らす
 - 結果的に健康な部分が減る
- SFA
 - 健康な部分に注目
 - 健康的な部分を増やす
 - 結果的に不健康な部分が減る



SFA

- SFAでは、クライアント自身が解決のための資源をもっているとの前提でそれを捜し、クライアントのもつ解決への資源を引き出すようにアプローチする。
- これを可能にするのがSFAのさまざまな質問技法
 - 質問は、一般的には治療者が患者を理解し、評価するための情報収集の手段として考えられがちであるが、SFAにおいては、質問そのものがクライアントのものの見方に働きかけ、変化を引き起こす重要な手段となっている、
 - コーピング クエッション
 - 例外探し
 - スケーリング クエッション